

# こさいタウンミーティング



◆ ◆ 次 第 ◆ ◆

## 開 会 (19 時)

- 1 開会あいさつ
- 2 湖西市長あいさつ
- 3 自己紹介（市幹部職員）

## 市より説明（19時10分）

- 4 「職住近接」による市の持続可能な発展に向けて  
令和2年度予算の概要（案）について

## 市長と一緒に語りましょう！（19時30分）

- 5 意見交換

テーマ「未来の子どもたちが住みたい・住み続けたいと思う湖西市にするためには」

## 閉 会 (20 時 30 分)

- 6 閉会あいさつ

【裏面あり】

## ～意見交換の流れ～

意見交換を始める前にグループワークを行い、意見交換で話し合いを行う議題を皆さんで決めます。

### ① 近くの人と6、7人のグループを作成。

### ② 質問、疑問、ご意見やアイデアなどを付せんに記入（全員）。《5分》

- ・付せん1枚につき1つの事項を記入してください。
- ・お一人様何枚でも結構です（0枚も可）。
- ・お名前の記入は不要です。

時間がありましたら、開催前に付せんへの記入をお願いします。

### ③ 市長と意見交換をしたい議題をグループで1つか2つ決定。《5分》

テーマ『未来の子どもたちが住みたい・住み続けたいと思う湖西市にするためには』

- ・議題は抽象的、具体的どちらでも大丈夫です。
- ・下記を参考にしてください。

#### 《議題の参考》

子育てのしやすさ、働く場所（仕事）の充実、臭気について、居住用の土地、買い物や外食について、交通の便、医療サービスの充実、防災について、防犯について、子どもの教育環境、市への愛着、福祉サービスの充実、公共施設・インフラの整備、自然環境について、在住外国人との共生 など

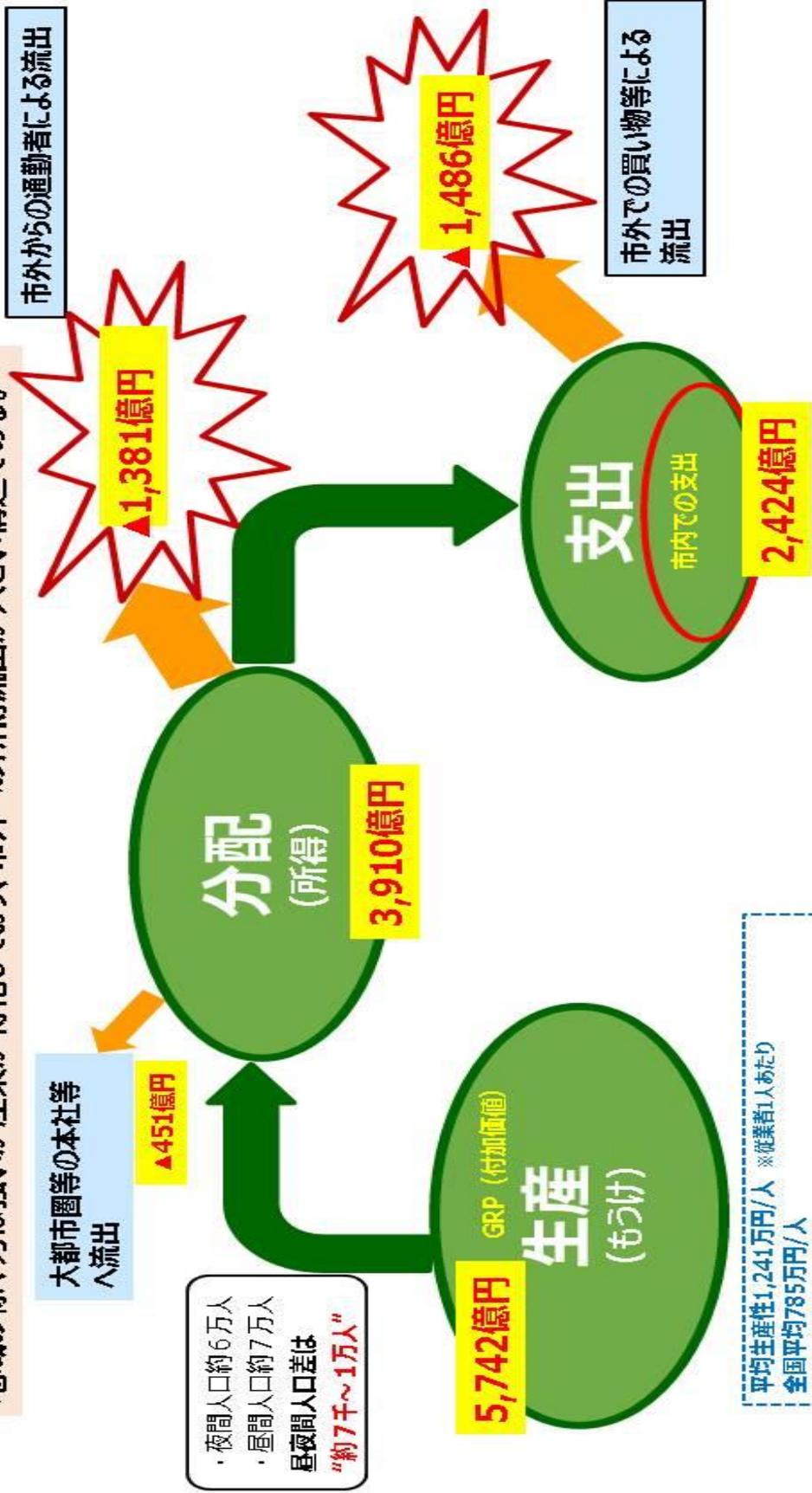
- ・議題が決まりましたら事務局（市の担当者）へ提出してください。  
また、その他の記入した付せんも全て回収し、事務局へ提出します。

### ④ 席を元の形に戻し、市長と意見交換を行いましょう！《60分》

- ・各グループから議題が提出されましたら、司会がアナウンスを行います。

# 湖西市内のお金の流れ

地域の稼ぐ力は強いが産業が特化しており、市外への所得流出が大きい構造である。



【出典】RESAS「地域経済循環図」2013年

▲3,318億円/年

(39位 / 1,712市町村)



# 令和2年度 予算(案)のポイント

『働くまち』から

『働いて**住む**まち』へ



令和2年2月

湖 西 市



## 1. 予算編成の基本姿勢と概要

令和の時代を迎え、時代の変遷とともに新しく生まれる多種多様なニーズに応えながら、将来にわたって持続可能な発展を目指し、

湖西市は引き続き『**職住近接**』をキーワードに、

- ① 子育て・教育の支援、充実
- ② 産業の振興
- ③ 観光・シティプロモーションの推進

を重点事業として、人口減少対策やにぎわいのあるまちづくりなど、新たな事業とこれまでの取り組みをさらに発展・深化させ、将来のために真に必要な施策を着実に推進する。

また、厳しい財政状況の中、「歳入に見合った歳出構造」の考えのもと、限られた財源を有効に活用しつつ、事業の「選択と集中」を行い、財政の健全化による持続可能な行財政基盤を構築していく。

一般会計 R2 : 217.1 億円      R1 : 212.7 億円

(+4.4 億円・+2.1%)

予算総額 R2 : 402.6 億円      R1 : 395.3 億円 (+7.3 億円・+1.8%)



本市は、企業活動が活発で地域の稼ぐ力は強いが、市外からの通勤者が多く、市外への所得流出が大きい構造となっているため、昼夜間人口の差の解消をめざし、移住・定住の促進を継続して重点的に行っている。

〈〈参考〉〉 将来を見据えた財政運営

○限られた財源を有効活用

将来の財政需要に備え、財政調整基金からの繰入を抑制

繰入額 : R1 : 8.3 億円 → R2 : 7.1 億円 (▲1.2 億円)

○市債（借金）の計画的な発行

大型建設事業に対応するため市債を発行

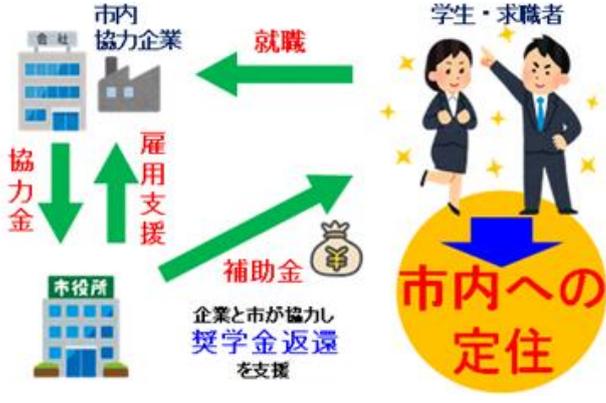
発行予定 : R1 : 当初 12.9 億円 (最終 13.6 億円) → R2 : 13.3 億円 (対当初: +0.4 億円)  
(対最終: ▲0.3 億円)

残高見込 : R1 末 : 167.3 億円 (繰越前 173.6 億※)

→ R2 末 : 171.4 億円 (+4.1 億円)

※R1 から R2 への繰越 6.3 億円の影響を除けば、市債残高は減少見込み。(▲2.2 億円)

## 令和2年度予算（案）のポイント 『職住近接』

項目	内容
<p style="text-align: center;"><b>湖西市BaaS事業</b></p> 	<p>市内企業が運行するシャトルバスに市民も乗車を可能とする仕組みの構築など、移動の利便性向上につながる次世代型モビリティサービスの実証実験等を行います。</p>
<p style="text-align: center;"><b>わ〜くわく「こさい」で新生活！ 奨学金返還支援</b></p> 	<p>湖西市への定住促進と市内企業の雇用確保を目的とし、市内に住み市内の企業に就職する若者に対し、企業と連携した奨学金返還支援補助金を支給します。</p>
<p style="text-align: center;"><b>臭気対策への取り組み</b></p> 	<p>臭気指数の規制基準を見直すため、令和元年11月から試行している市民臭気モニターの成果をもとに臭気測定を実施します。</p> <p>また、畜産臭気対策として引き続き、畜舎の密閉化、消臭剤散布等の臭気対策を実施する畜産事業者に対して県と連携し支援していきます。</p>

# こさいタウンミーティング

— 市立湖西病院資料 —

市長と語ろう！

## ■市立湖西病院の事業内容

≪平成30(2018)年度実績≫

医療事業	
外来医療	398人/日
入院医療	71人/日
救急医療	7,518人/年
	救急搬送 913台/年
災害医療	
保健事業	
住民検診	12,941人/年
特定保健指導	514人/年
人間ドック	1,343人/年
事業所検診	10,909人/年
予防接種	3,513人/年

1/22 静岡(23) 湖西市消防 19年概況 市内搬送増で効率化 救急出動2193件依然多く

湖西市消防本部は21日までに、2019年の管内の火災と救急の管内の火災と救急の救助の概況をまとめた。救急出動件数は2193件で、過去最多となった前年から23件減少したが、高齢化などのため依然として多い状況が続いた。救急出動は1日平均6・0件。酷暑だった18年より熱中症搬送者

は減ったが、全体では大幅な減少ならなかった。搬送者2062人のうち、市立湖西病院への搬送が5割の1032人(前年比117人増)で過去最多。病院側の積極的な受け入れや連携強化が大幅な増加につながった。市外への病院搬送の割合が減ったことで、搬送時間が短縮される効果があったと

火災出動21件(同5件増)のうち、建物火災は9件(同3件増)で火災による死者はいなかった。救急出動は26件(同9件減)で、3年連続で減少した。同本部の職員は現在93人。増加傾向の救急出動に対応するため、23年度当初までに98人を1隊追加する。

「静岡新聞 1月22日掲載」

## ≪事業動向≫

項目	内容	効果額
1 地域包括ケア病床の運用開始	急性期治療が終了し病状が安定したものの、すぐに自宅や施設等での療養に移行することに不安がある患者に対して、在宅復帰に向けて医療管理、診療、看護、リハビリを行うことを目的とした地域包括ケア病室を2病室10床、令和元年6月に開設しました。	1,400万円
2 白内障手術の実施	平成30年6月から白内障の手術(一日上限5件)を開始しました。令和元年7月からは設備を充実し一日上限7件までできるよう拡大しました。	1,000万円

## ≪病院事業会計への繰出金の推移≫

年度	繰出金予算額	前年度比	うち基準外	基準外前年度比
平成30年度	11億1,518万円	▲8,482万円	6億円	▲2,275万円
令和元年度	9億3,552万円	▲1億7,966万円	5億3,000万円	▲7,000万円
令和2年度	8億9,848万円	▲3,704万円	4億9,310万円	▲3,690万円

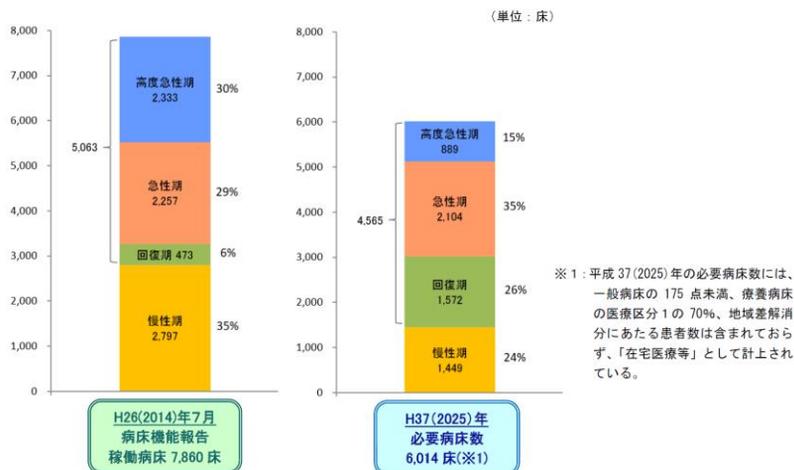
# 再検証を要する公立・公的医療機関とは

厚生労働省は、急激に進む高齢化と医療需要予測を基に2025年時点の必要病床数を提示し、都道府県に**実稼働病床を必要病床数に合わせる計画（地域医療構想）**を策定するよう求め、各地域に地域医療構想調整会議を発足し、構想実現に向けて検討を促しています。

## ◎西部医療圏

（浜松市・湖西市）  
の病床数

平成 26 年 (2014 年) 7 月病床機能報告稼働病床数と平成 37 年 (2025 年) 必要病床数の比較



※静岡県地域医療構想  
平成28年3月より引用

公立・公的医療機関等の役割が当該医療機関でなければ担えないものに重点化されているかという視点で、以下の A・B の要件で評価し、具体的対応方針を再検証すべき公立・公的医療機関を公表。

**A) 「診療実績が特に少ない」** ※西部医療圏（浜松市・湖西市）は人口50万～100万人規模の医療機関として評価されます。

①がん②心疾患③脳卒中④救急⑤小児⑥周産期⑦災害⑧へき地⑨研修・派遣機能

当院は A  
「診療実績  
が特に少な  
い」に該当

医療機関単位の  
「診療実績が特に  
少ない」の分析

「診療実績が特に  
少ない」領域が多  
数となる公立・公  
的医療機関等

9領域全てで実績  
が少ない  
⇒再検証を要請

**B) 「類似かつ近接」** ※自動車での移動時間が20分以内の距離に診療実績を有する他の医療機関があるかを評価しています。

①がん②心疾患③脳卒中④救急⑤小児⑥周産期

領域・項目ごとに  
構想区域の類型  
化

集約型・横並び型  
・類似の診療実績の  
分析  
・近接の分析

6領域全てで該当  
⇒再検証を要請

具体的対応方針の再検証の要請を受けた際は、**再編統合（ダウンサイジングや、機能の分化・連携・集約化、機能転換・連携等を含む）**について特に議論が必要な公立・公的医療機関等は、構想区域の他の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向等を踏まえて協議し、遅くとも2020年9月末までに結論を得る。

2019年6月から地域包括ケア病室を開始し、今後それをさらに拡大して病棟化を目指します。急性期医療だけでなく、回復期の患者さんの受入れも積極的に行っていきます。高度急性期・急性期医療で当院に不足する機能に関しては、浜松市内の医療機関と積極的に連携していきます。⇒**機能転換・連携**